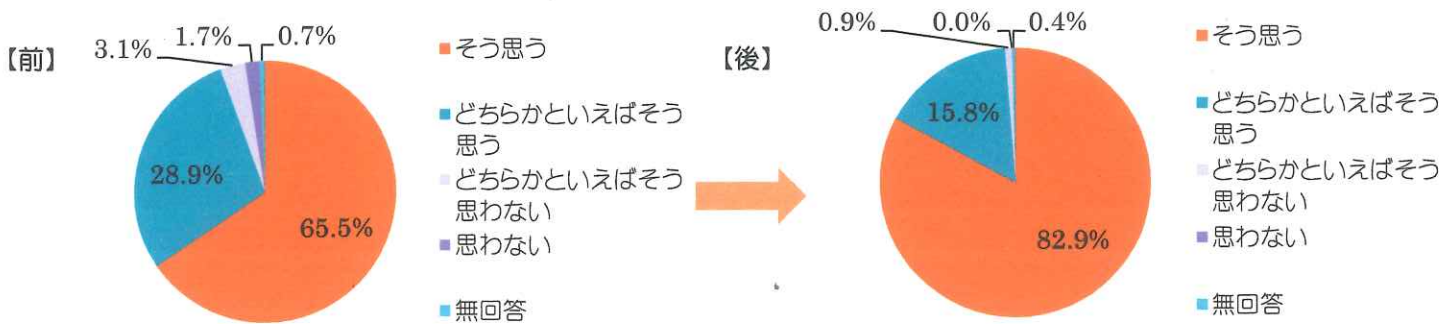




【 Q2 がんになっている人も、過ごしやすい世の中にしたい 】



- 私は、米田さんの話を聞いて、小児がんのことを初めて知り15 歳以下の子供が苦しんでいる姿をみて、ヘアドネーションなどから始めてみたいと思いました。
- 生まれて間もない子供も癌になってしまい、辛い治療を頑張って受けていることを知ってすごく胸が痛くなりました。大人になったら献血やドナー登録などできることはしようと思いました。
- 私は1歳のときに不全型川崎病にかかり自分の中では記憶はないけれど、写真などを見て両親から「こんなことがあったんだよ。」と、聞いていました。今日の講話を聞いて、とても私の親もたくさん苦労していたんだと思いました。今の生活が当たり前だと思わないで生きていきたいです。
- 学校に行って友達に会えるのは、当り前のことではないと改めて感じました。人からもらった言葉をもっと大切にしたいです。そして、家族や身近な人が何よりも幸せになってほしいです。
- 家族の中でドナーカードについて話し合ったことはあったけれども、がんのことについては話し合ったことがなかったので、家族と話し合いたいと思いました。がんというワードからネガティブなイメージばかりがあったけれども、闘病生活を送って精一杯生きている人がいるということを知ることができてよかったです。
- あんなに小さい赤ちゃんでもがんになって、その痛みや苦しみとがんばって戦っていることがすごいし、看病と育児を両立して、寝不足になりながらも一緒に闘っているご両親もすごいと思いました。これからは青森県内で小児がんへの理解や治療できる場所などがもっと充実していけばいいと思いました。
- がんと聞けば、今まで「タバコやお酒の影響でなること」しか思い浮かばなかったけれど、小さい頃に防ぎようがなくかかってしまうがんがあると知って、そんな人達も過ごしやすい世の中になればいいと思いました。
- 米田さんは、自分の娘さんが闘病したことの経験を、ただ「辛かった」で終わらせるのではなく、自分と同じような境遇に経っている人がたくさんいるのに、支援している団体が一つもないという現実を変えるために、自分が動くという行動力がすごいと思いました。自分も将来は看護師になりたいと思っているけど、これまで白血病のことは全く知らなかったの、将来に活かしたいと思いました。
- 実際の体験を聞いて青森では治療できる病院が少ないことに、まず驚きました。がんになった人にも優しい世の中になって、がんになっても希望を持ち続けられるようなイメージを作っていきたい。健康に生きていられることこそ、幸せだと思った。
- 小児がんの理解が求められているのは、苦しむ人、辛い人が置き去りにされているからなのだと、闘病生活の話を聞いて思いました。子供が何も知らずに苦しむのを見るのは、本当に辛いことだろうと思います。でも、その弱った体でも一生懸命生きようとする姿、笑顔が、闇の中の光となり、自信と勇気を与えたんだと思いました。
- とても小さな赤ちゃんが、闘病している姿にとっても驚きました。苦しうだったけれど、笑顔もあったので、嬉しかったです。今日小児がんについて知ることができてよかったです。身近な人からでも、私も小児がんについて話していきたいです。
- こんな小さい赤ちゃんがあんなにも頑張っている姿を見て、自分も些細なことで落ち込まないで一生懸命生きようと思えました。